

過去10年間における 火災統計資料

(釧路市・白糠町 平成28年～令和7年)



令和8年3月作成

釧路市消防本部予防課

目次

1 過去10年間火災の傾向(全577件)

(1) 火災発生件数と損害額	1
(2) 火災種別件数	1
(3) 管轄別火災発生状況	1
(4) 消防覚知時間帯別火災発生状況	1
(5) 月別・日別・曜日別火災発生状況	1
(6) 死者及び負傷者の発生状況	
ア 死者発生状況	2
イ 負傷者発生状況	2
(7) 火災原因状況	3
(8) 火災原因上位について	
ア 電気関係	3
イ たばこ	4
ウ 放火・放火の疑い	4
エ ストーブ	5
オ こんろ	5

2 住宅火災の実態(全205件)

(1) 建物火災中における住宅火災の発生状況	6
(2) 住宅火災の焼損程度別件数	6
(3) 住宅火災の出火箇所別件数	6
(4) 住宅火災の出火原因別火災件数	6
(5) 住宅用火災警報器の設置状況等	7
(6) 住宅火災における死者発生の時間帯	7

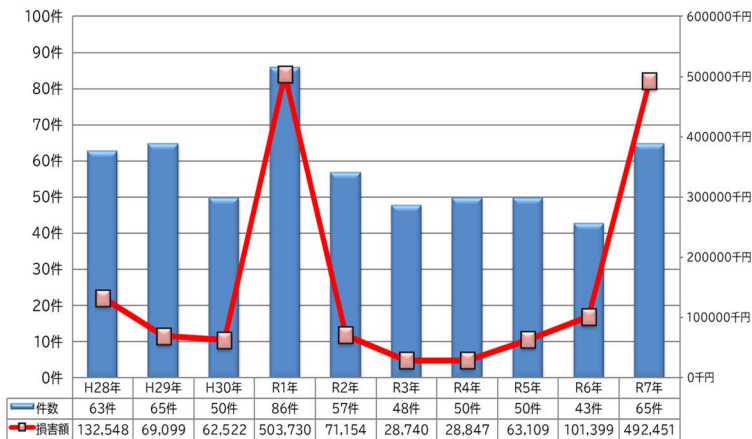
3 各時季の火災の特徴

(1) 春(3月～5月)	8
(2) 夏(6月～8月)	8
(3) 秋(9月～11月)	9
(4) 冬(12月～2月)	9

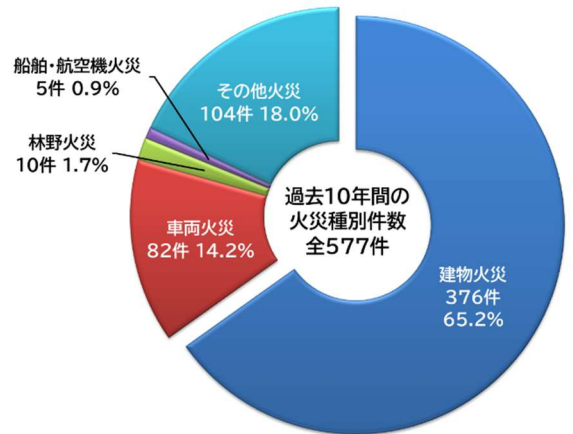
1 過去10年間火災の傾向（全577件）

過去10年間で火災は577件発生し、15億5,359万9千円の損害額を出している。火災種別で見ると、建物火災が376件で最も多く、全体の約65%を占めている。

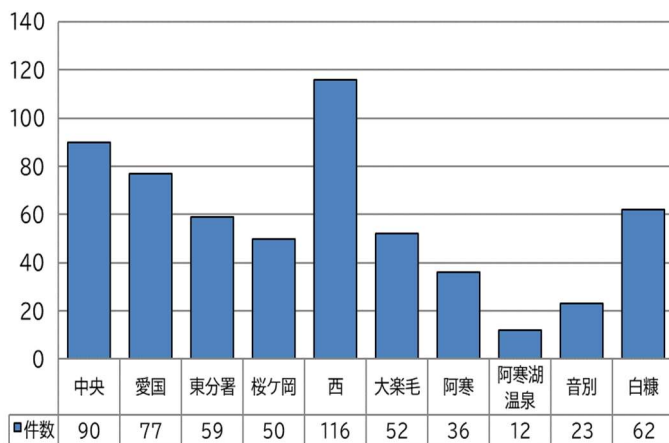
(1) 火災発生件数と損害額



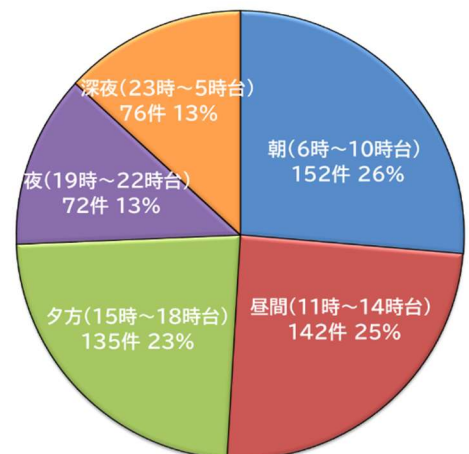
(2) 火災種別件数



(3) 管轄別火災発生状況



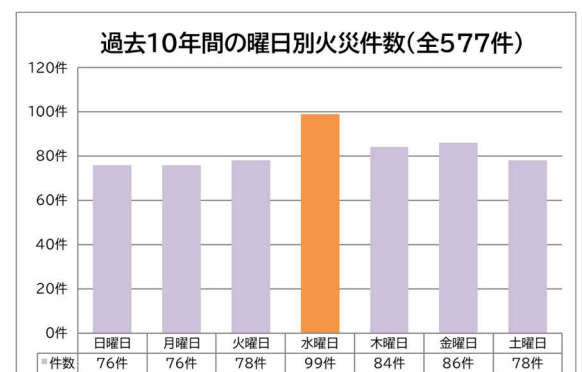
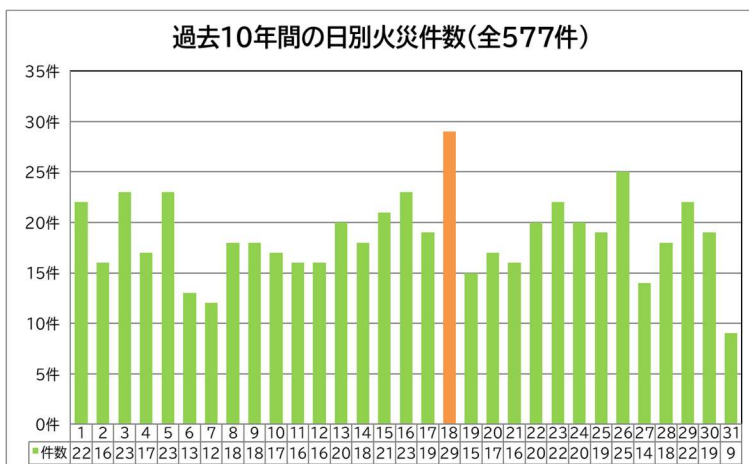
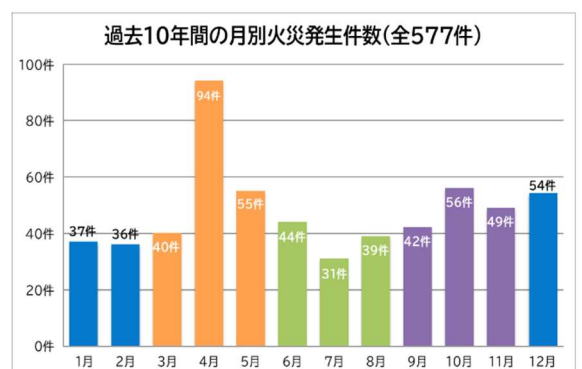
(4) 消防覚知時間帯別火災発生状況



(5) 月別・日別・曜日別火災発生状況

月別で見ると4月が94件で最も多く火災が発生していることがわかる。

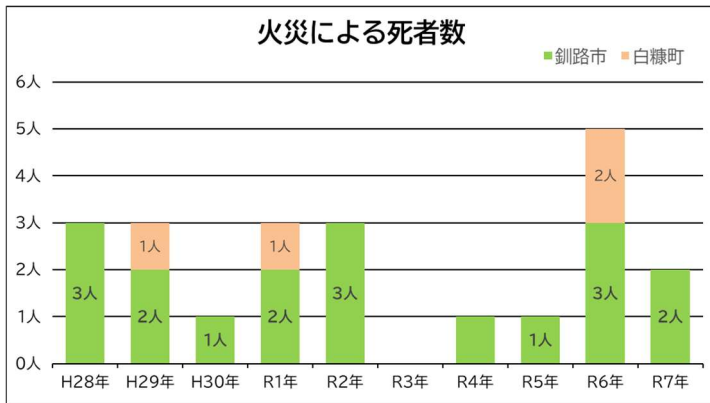
また、日別・曜日別で見ると、18日(29件)水曜日(99件)が最も多く火災が発生していることがわかる。



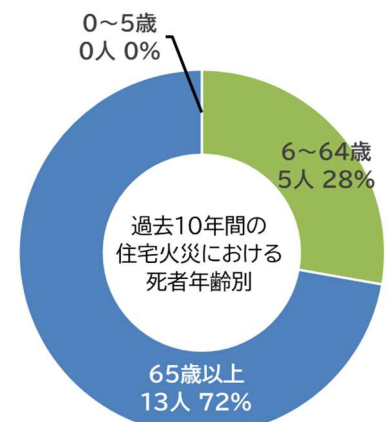
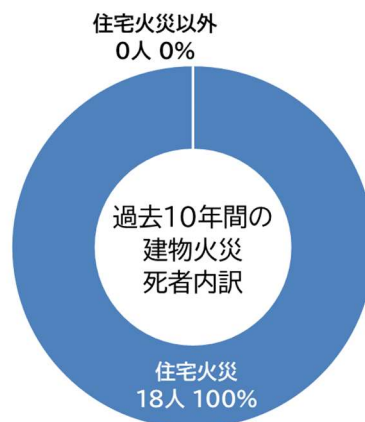
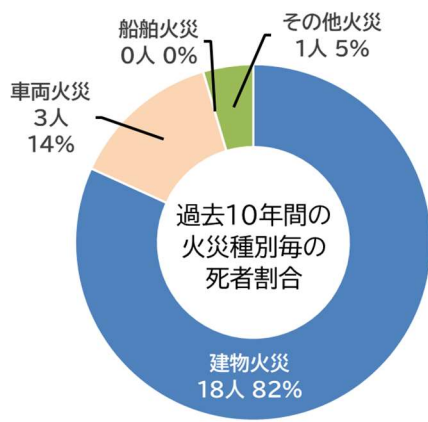
(6) 死者及び負傷者の発生状況

ア 死者発生状況 (22人)

過去10年間で、火災による死者は22人発生した。そのうち18人は建物火災によるものであり、その全てが住宅火災による死者である。年齢別でみると、65歳以上の高齢者が72%を占めている。

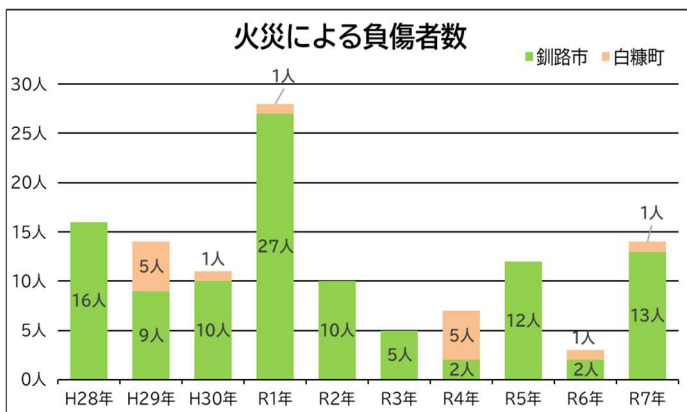


火災種別	0~5歳		6歳~64歳		65歳以上		合計	自損
	発生数	自損	発生数	自損	発生数	自損		
建物火災	0	0	5	0	13	0	18	0
住宅	0	0	5	0	13	0	18	0
住宅以外	0	0	0	0	0	0	0	0
車両火災	0	0	3	0	0	0	3	0
船舶火災	0	0	0	0	0	0	0	0
その他火災	0	0	0	0	1	1	1	1
合計	0	0	8	0	14	1	22	1

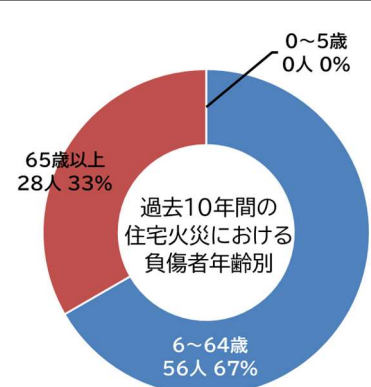
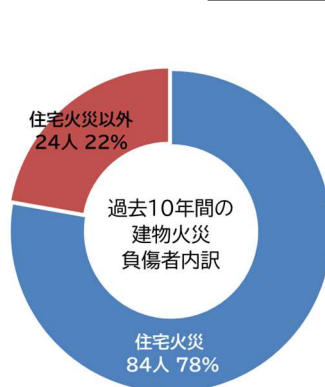
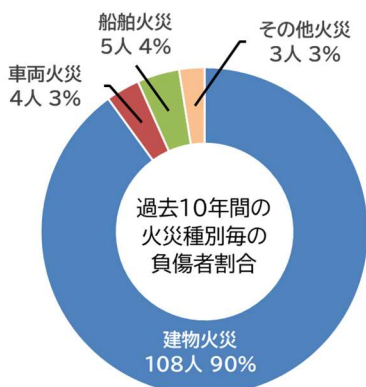


イ 負傷者発生状況 (120人)

過去10年間で、火災による負傷者は120人発生した。そのうち108人は建物火災によるものである。



火災種別	0~5歳		6歳~64歳		65歳以上		合計	自損
	発生数	自損	発生数	自損	発生数	自損		
建物火災	0	0	73	0	35	0	108	0
住宅	0	0	56	0	28	0	84	0
住宅以外	0	0	17	0	7	0	24	0
車両火災	0	0	3	2	1	0	4	2
船舶火災	0	0	5	0	0	0	5	0
その他火災	0	0	1	0	2	0	3	0
合計	0	0	82	2	38	0	120	2



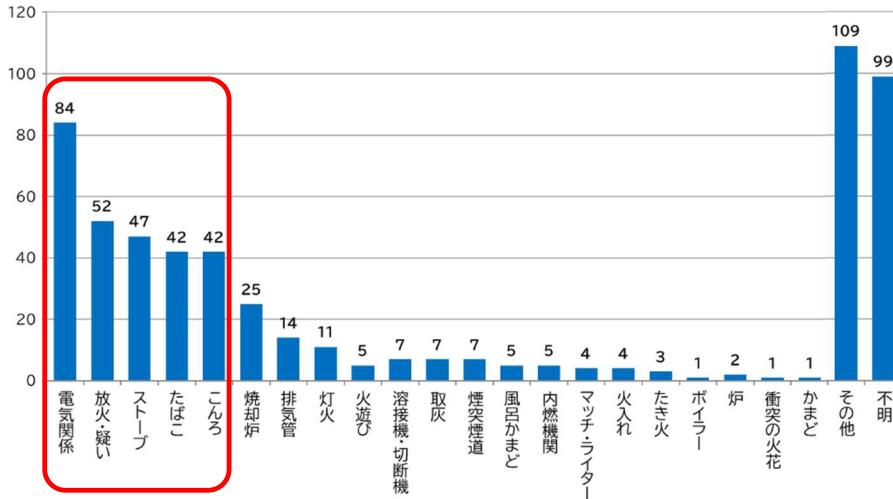
(7) 火災原因状況

過去 10 年間で最も多い火災原因は「電気関係」で 84 件であった。

次いで、「放火・放火の疑い」52 件、「ストーブ」47 件となっている。

主な火災原因として、「電気関係」「放火・放火の疑い」「ストーブ」「たばこ」「こんろ」が例年上位を占めており、全体の 46% を占めている。

過去10年間の火災原因別件数(全577件)



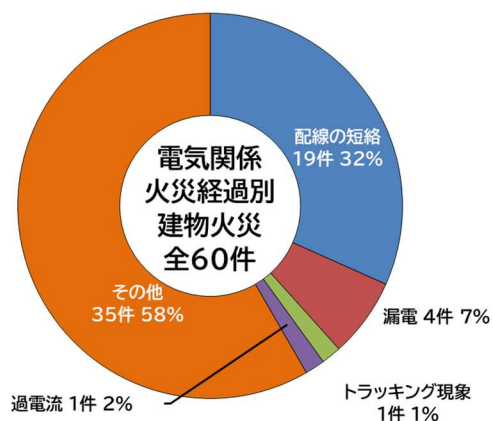
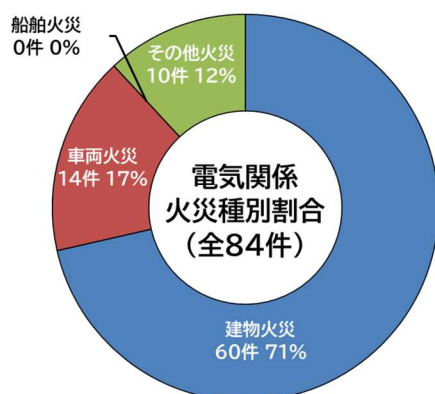
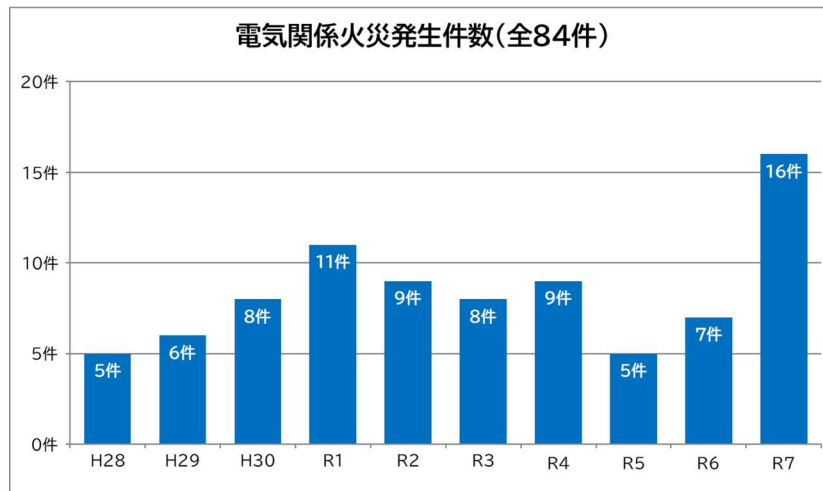
(8) 火災原因上位について

ア 電気関係（過去 10 年で 84 件）

電気関係による火災で最も多い種別は「建物火災」60 件で約 71% を占めている。

火災へと至った経過について「建物火災」に限定してみると、配線の短絡（ショート）が 19 件で約 32% を占めており、次いで「漏電」4 件、「過電流」1 件、「トラッキング現象」1 件となり、これらで電気関係による建物火災全体の 41% を占めている。

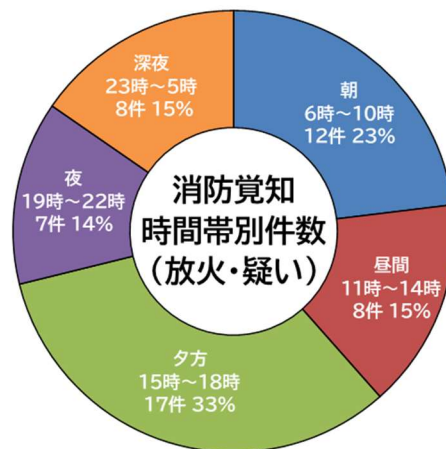
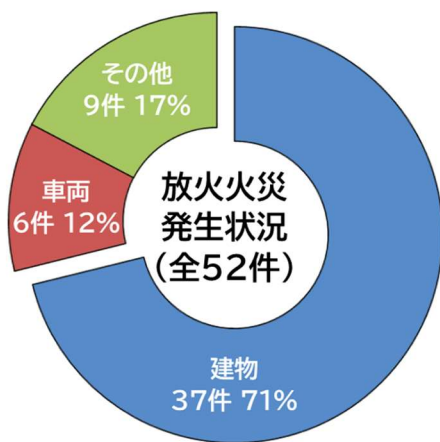
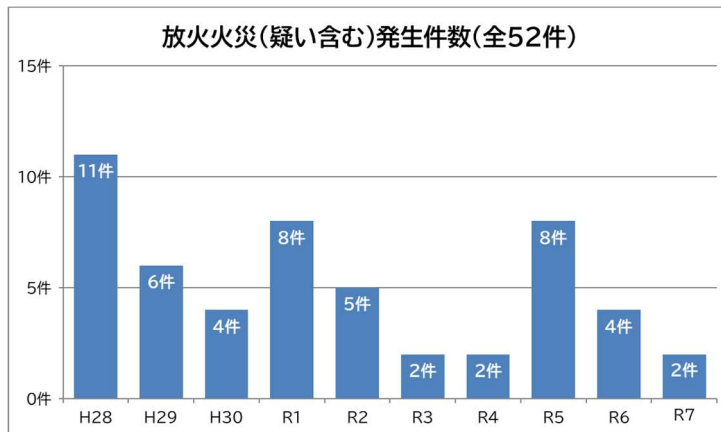
電気関係火災発生件数(全84件)



イ 放火・放火の疑い（過去 10 年で 52 件）

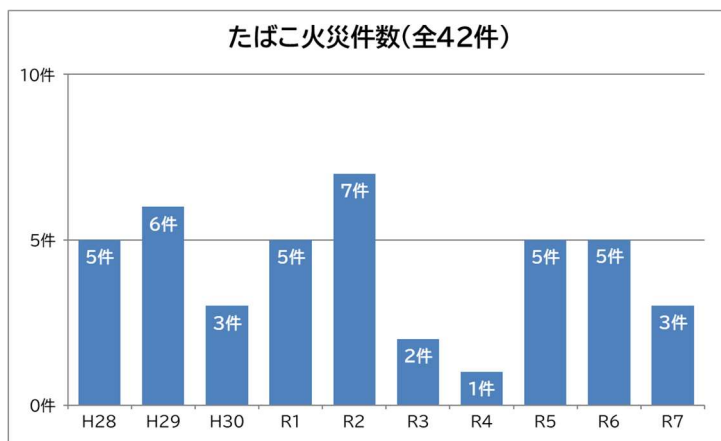
52 件のうち 37 件は建物火災となっている。

消防覚知時間別件数では、夕方（15 時から 18 時台）の発生件数が 17 件と最も多く、全体の 33%を占めている。

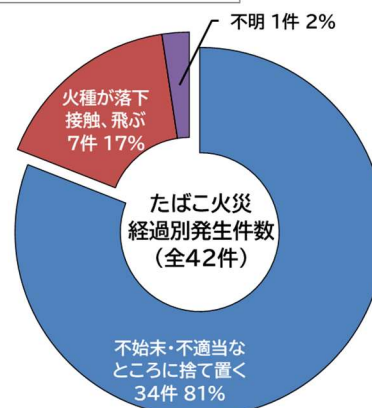


ウ たばこ（過去 10 年で 42 件）

経過別では、「不始末・不適當なところに捨てる」が 34 件で約 81%を占めている。



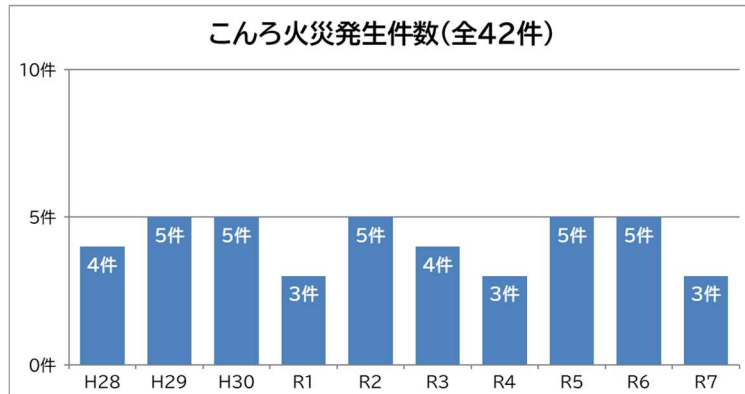
たばこ出火原因経過別件数	
経過別	件数
不始末・不適當なところに捨てる	34件
火種が落下、接触、飛ぶ	7件
灰皿の破損	0件
吸い殻が燃焼し金属製の灰皿が過熱する	0件
本来の用途以外の不適の用に用いる(蟻駆除)	0件
ライターのカスに引火する	0件
不明	1件
合計	42件



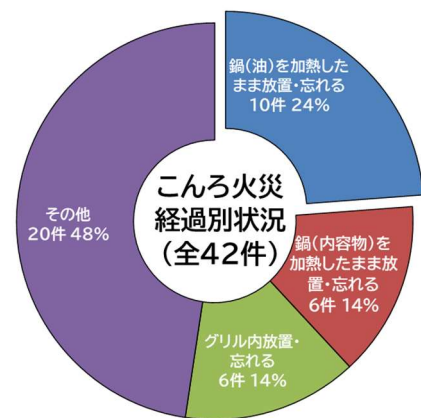
エ こんろ（過去10年で42件）

経過別でみると、「天ぷら鍋を加熱したまま放置・忘れる」が10件で24%を占めた。

また、天ぷら鍋以外にも、グリルや鍋を加熱したまま「放置・忘れる」が合計12件で28%占めており、「放置・忘れる」という経過が全体の52%を占めている。

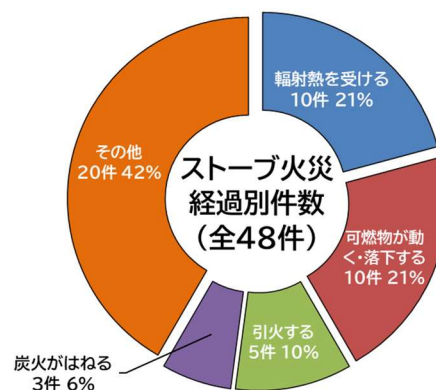
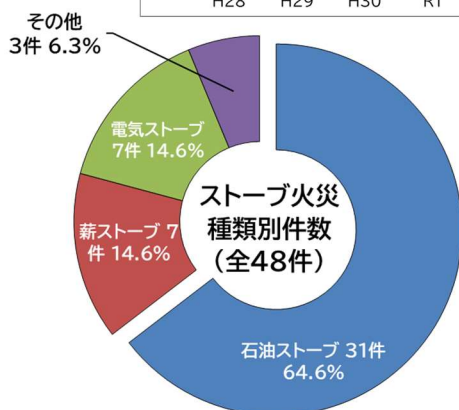
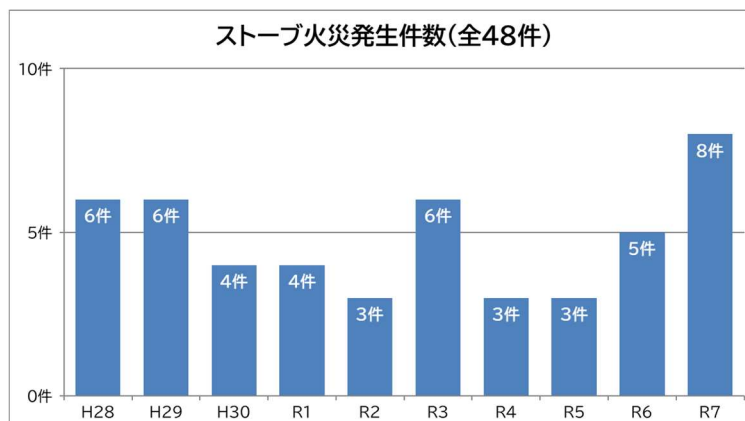


こんろ火災経過別件数	
経過	件数
天ぷら鍋の放置・忘れる	10件
グリル内放置・忘れる	6件
グリル内の過熱	6件
鍋の放置・忘れる	6件
輻射を受けて発火	2件
意図無しにスイッチが入る	0件
周囲の可燃物に着火	4件
着衣着火	1件
その他	7件
合計	42件



オ ストープ（過去10年で48件）

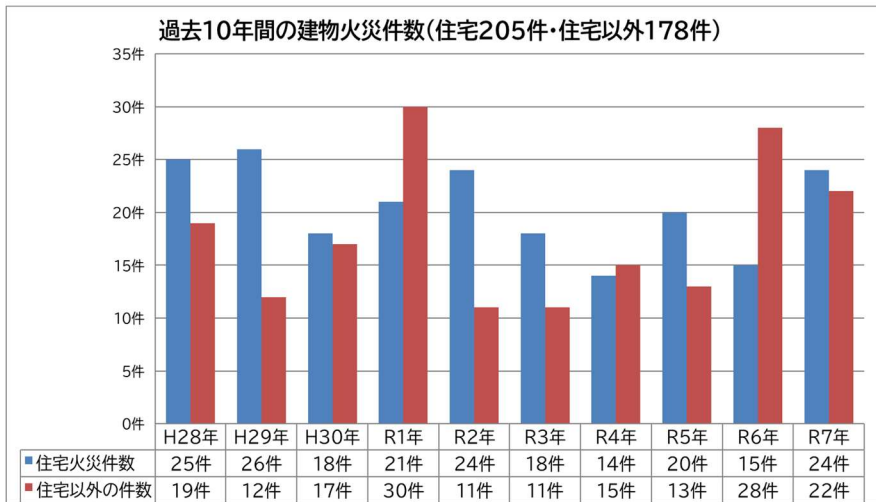
種類別でみると「石油ストーブ」からの出火が31件で最も多く、経過別でみると「輻射熱を受ける」、「可燃物が動く・落下する」が10件で最も多かった。



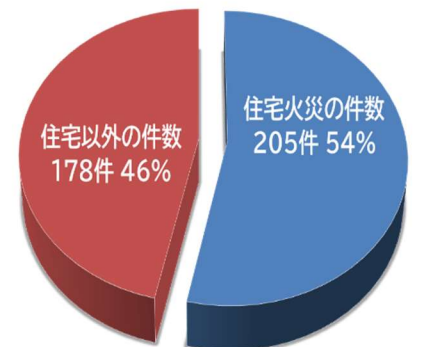
2 住宅火災の実態（全 205 件）

（1）建物火災中における住宅火災の発生状況

過去 10 年間における住宅火災は 205 件で建物火災全体の約 54%を占めている。



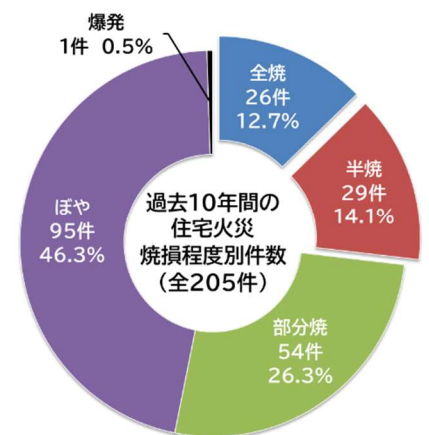
過去10年間の建物火災件数(全383件)



（2）住宅火災の焼損程度別件数

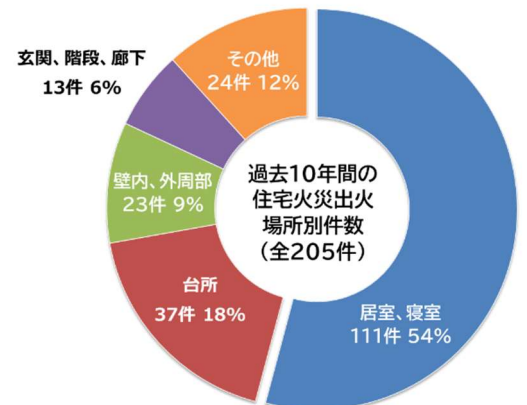
住宅火災の焼損程度別でみると、「ぼや」が 95 件で全体の約 46%を占めている。

また、「全焼」・「半焼」の被害の大きい住宅火災は約 27%を占めており、住宅火災の約 4 件に 1 件は大きな被害を受けていることがわかる。



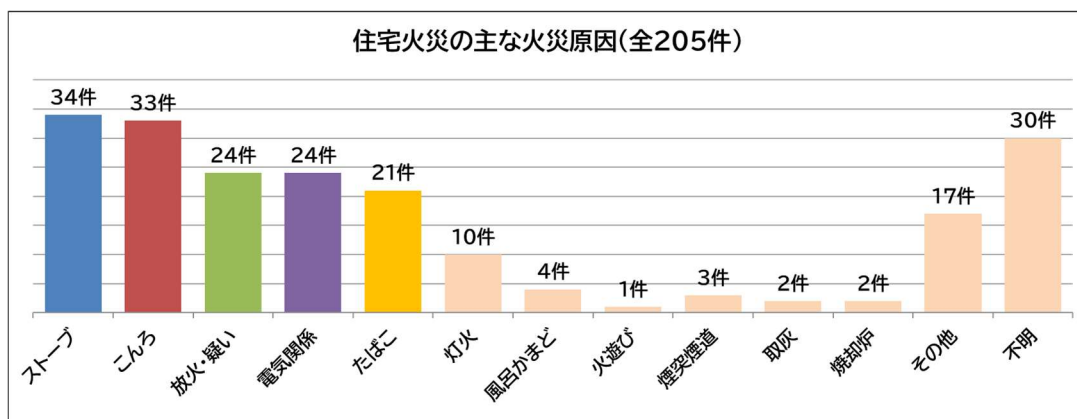
（3）住宅火災の出火箇所別件数

住宅火災の出火箇所別でみると、「居室・寝室」からの出火が 111 件で、全体の約 54%を占めている。



（4）住宅火災の主な出火原因別火災件数

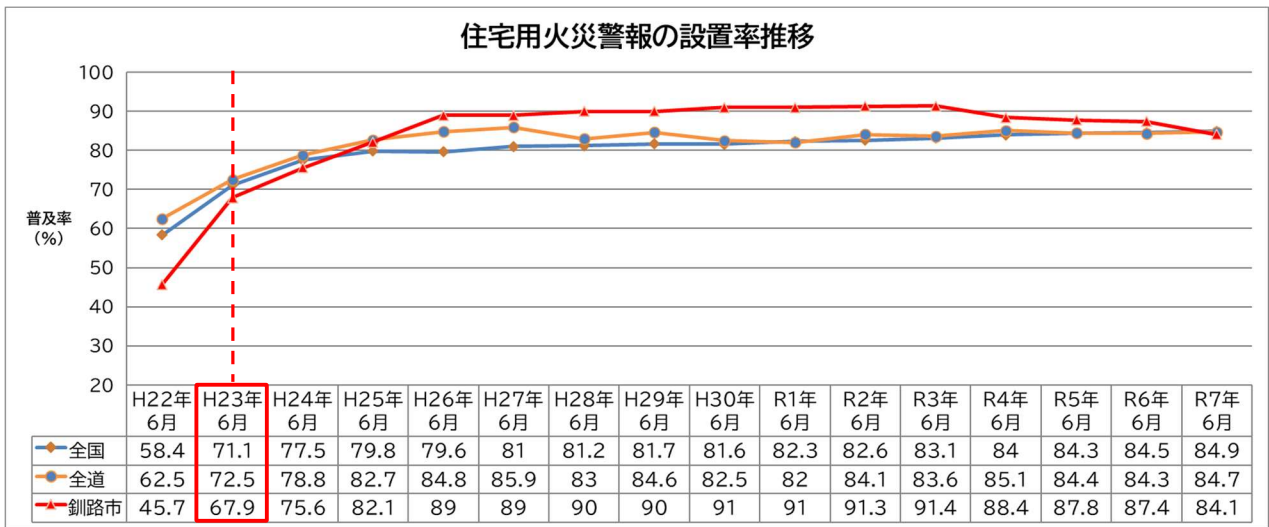
住宅火災の主な出火原因別でみると、「ストーブ」が 34 件で最も多く、次いで「こんろ」33 件、「放火・放火の疑い」24 件、「電気関係」24 件となった。



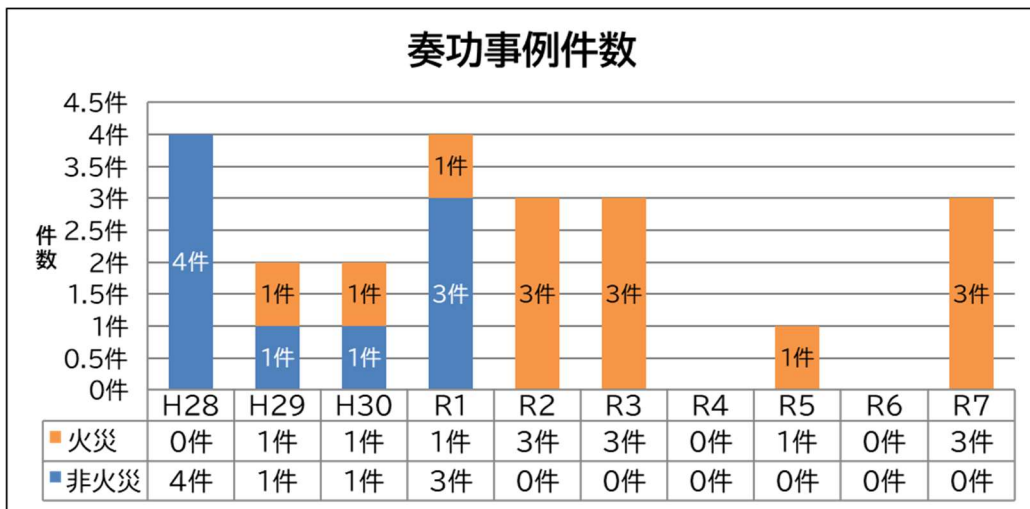
(5) 住宅用火災警報器の設置状況等

釧路市の住宅用火災警報器設置率は令和7年6月時点で84.1%を占めており、全国・全道の設置率と概ね同率である。

奏功事例は過去10年間で22件発生し、そのうち非火災となったものが9件あった。



設置義務化

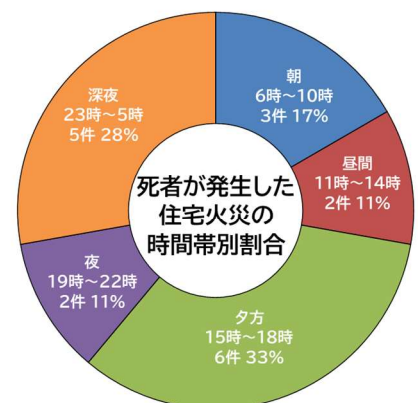
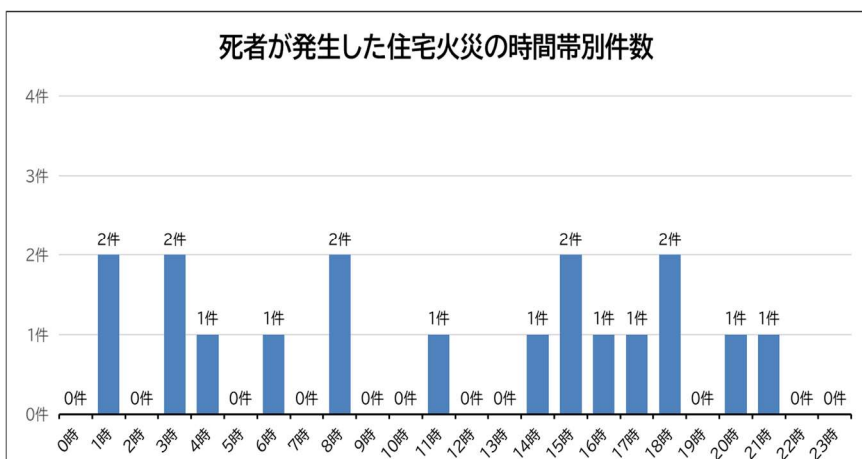


※住宅用火災警報器設置の完全義務化は2011年(平成23年)6月1日から

(6) 住宅火災における死者発生時間帯

過去10年間に住宅で発生した火災で18人(放火自殺者を除く)が亡くなっている。

その中で、「1時」、「3時」、「8時」、「15時」、「18時」が2件と多く発生しており、時間帯でみると夕方から夜にかけての発生が全体の約72%となっている。



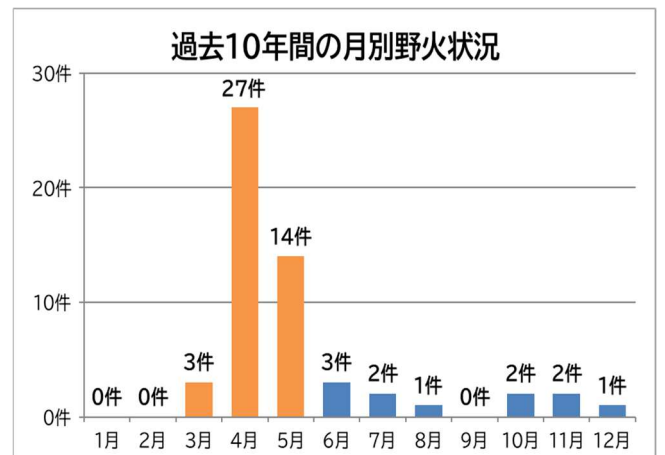
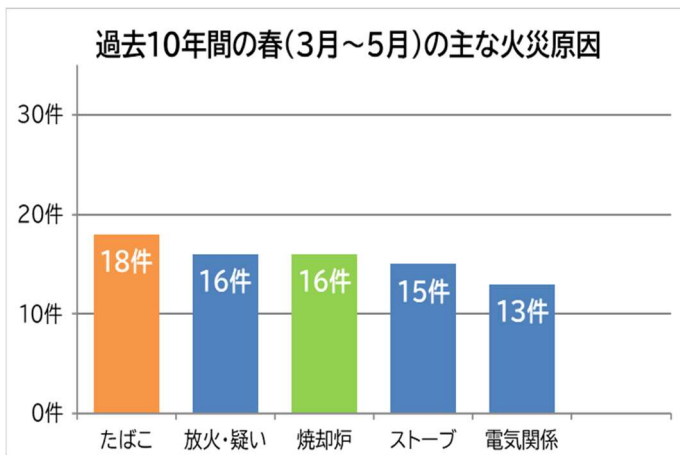
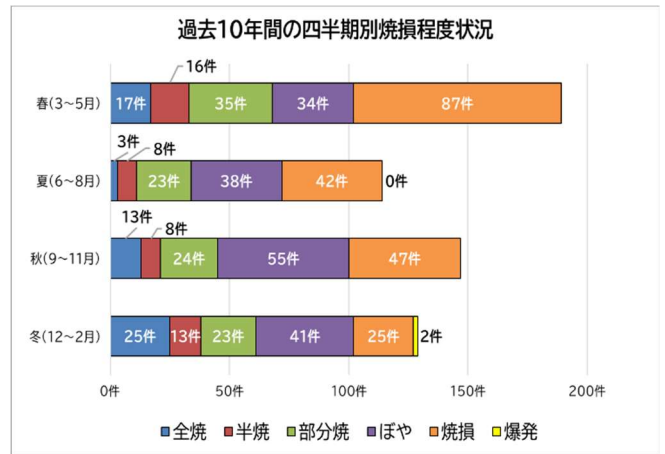
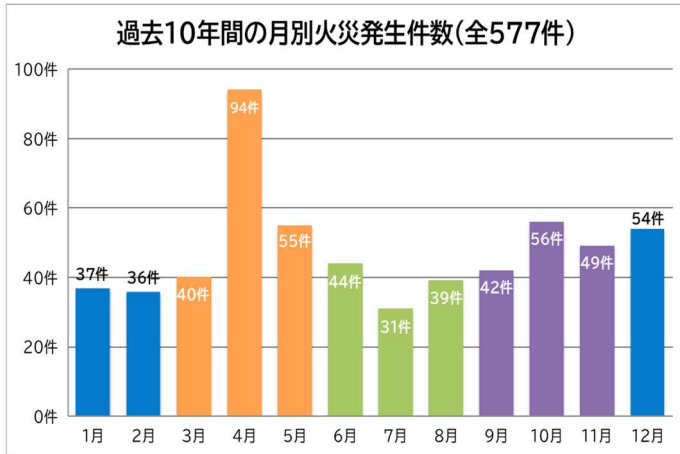
3 各時季の火災の特徴について

(1) 春（3月～5月）（全 189 件）

1年を通して最も火災の発生件数が多く、他の時季と比べて野火の発生が多い。

火災原因では、上位5位内に他の時季にはない「焼却炉」が入っており、野火へと繋がりがやすい「焼却炉」が多く占めていることが特徴である。

また、焼損程度別件数でみると、建物以外の火災焼損を示す「焼損」が最も多く占めており、そのほとんどが野火である。

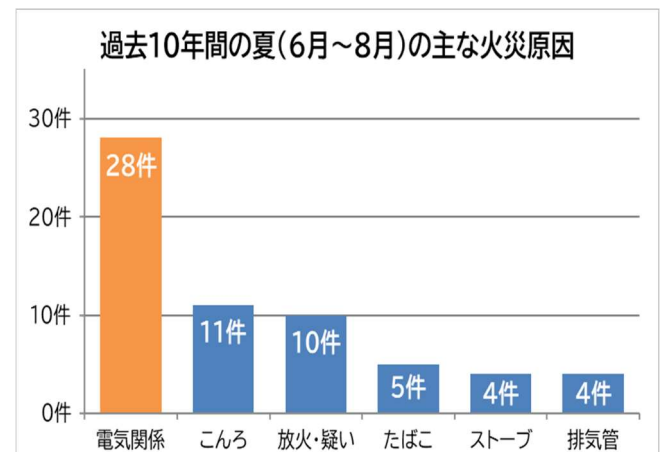
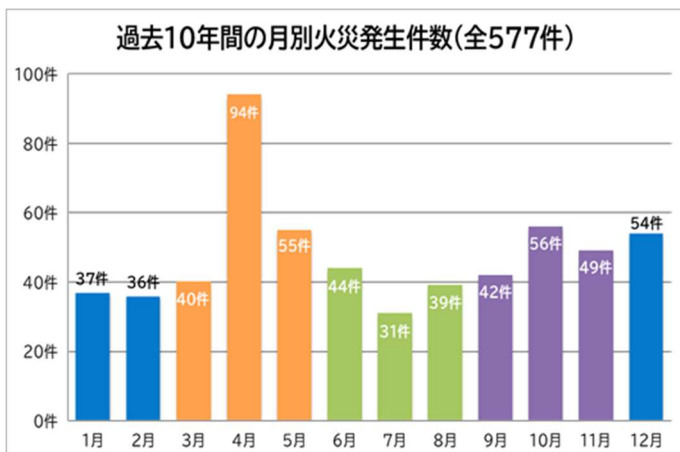


(2) 夏（6月～8月）（全 114 件）

1年を通して最も火災の発生件数が少ない時季である。

原因別でみると「電気関係」が最も多く発生している。

2018年（平成30年）には、6月6日から7月31日の55日間火災の発生がなく、過去10年間で最長の無火災期間となった。

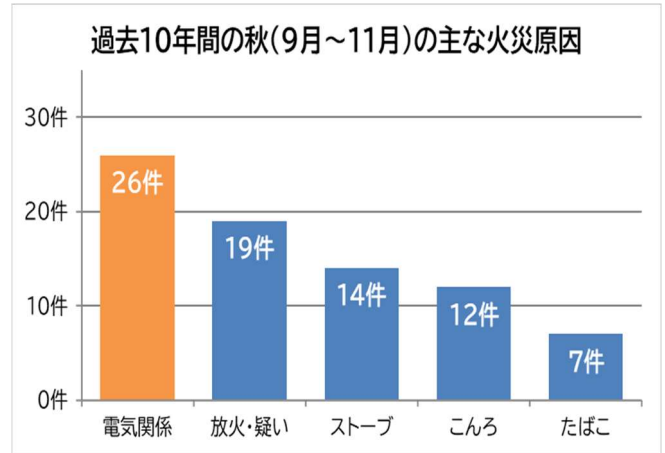
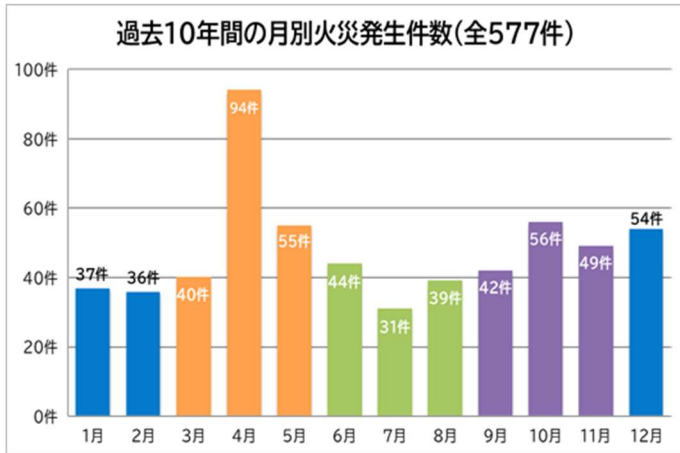


(3) 秋（9月～11月）（全147件）

春に次いで火災発生件数が多い時季である。

火災原因では「電気関係」が最も多く発生している。

春と同様空気が乾燥しており、火災が発生しやすい時季で、10月には全道一斉秋の火災予防運動を実施している。



(4) 冬（12月～2月）（全127件）

気温が下がり、ストーブの使用頻度が増える時季である。

最も多い火災原因は「電気関係」で17件発生しており、次いで「ストーブ」15件、「たばこ」12件となっている。

焼損程度別でみると、「全焼」「半焼」の割合が他の時季に比べ多く、火災による死者が最も多く発生していることも特徴である。

